

11月	矢作川 愛護モニター報告	モニター区間	矢作川:左右岸 15.0km~21.0km 管轄出張所:岡崎・安城出張所
実施日	令和 5 年 11 月 3 日	実施区間	18.0km ~21.0km (右岸)

渡橋の橋上から見える魚の群れ 透明感が際立った11月の矢作川

11月3日(金)は、気温25度前後を記録し、暑いと感じる夏のような日差しの強い日でした。

渡橋(20.6km)の橋上から、20mほど下の矢作川を見ると数十匹の魚の群れが見えるほど澄んでいました。透明感が際立つ矢作川はとても魅力的でした(①)

現在、矢作川には87種類もの魚が生息しているといわれます(梅村 稔二著・「川とともに生きる」参考)。橋上から見た魚の種類はとうてい分かりませんが、矢作川が豊かな生態系の源であることを今回も実感しました。

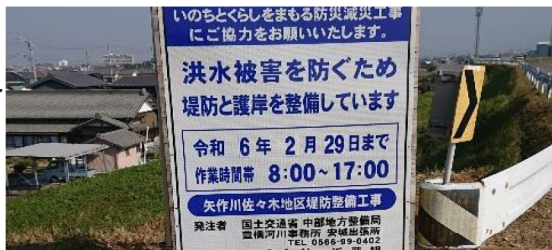
河川敷の砂は、まるで海岸のように細かく、白く輝いていました。それでも、河川敷に広がる野草群は、白や黄色に変化するものが増え、秋の到来を告げていました(②)。

200m近くある渡橋の歩道を歩くと、汗が出てくるほどでしたが、心休まるひとときになりました。

「洪水被害を防ぐ堤防・護岸整備」 続く盛り土の工事

右岸の18.6Km付近では「洪水被害を防ぐ堤防・護岸整備」ということで工事が続いています。案内板の説明と現場の様子から見ると、堤防の内側にさらに盛り土をしていると思われます。

案内掲示板によれば、令和4年から令和6年にかけて行われる工事のようです。2年間近くかけて行われる工事なので、変化を見ていきたいと思えます(③④)。



①透明感が際立つ渡橋下の矢作川



②秋の気配も見え始めた河川敷野草群



③堤防内の整備を続ける重機



④堤防内にさらに盛り土が行われた